

「郷土の偉人，泊 如竹について」

1 学校名

屋久島町立安房小学校

2 学年・人数

第3学年 い組 20名，ろ組 21名 合計 41名

3 日時・場所

(1) 見学の日時

平成27年1月16日 9:50～12:00

(2) 見学の場所

如竹廟，本佛寺，如竹堀

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称

ア 如竹廟 (じょちくびょう)

イ 如竹堀 (じょちくぼり)

(2) 時代

江戸時代 (泊如竹 1570年～1655年)

ア 如竹廟 1655年 (明暦元年)

イ 如竹堀 1648年頃 (慶安元年頃)

(3) 特徴

屋久聖人と称された泊如竹について，総合的な学習の時間に，安房校区にある県指定文化財（史跡）泊如竹の墓（如竹廟）と，島民の生活の安定を望んだ泊如竹が，安房集落に水を引く工事に尽力し，完成させた用水路（如竹堀）の遺構を見学する。

泊如竹の墓は，如竹廟として後世の人々に大切に守られ，今に至るまで，美しく整備されている。

また，当時，用水川と呼ばれた如竹堀の遺構は，一部保存されている石積み傍らに，堀の構造やその効用等を記した石碑が建てられている。

5 保存会や地域との連携の具体

泊如竹については，安房区むらづくり委員会が発行した伝記絵本「屋久聖人泊如竹物語」が平成23年2月，学校に寄贈されていたので，児童は見学前に読み，泊如竹に関する知識を得ることができている。また，これまでに，如竹祭りに参加したり，如竹踊りを見たりした経験がある児童も少なくない。如竹祭りや如竹踊りについては，町社会教育課に協力を依頼して資料や映像をお借りし，活用することができた。

当日は，泊如竹が5歳で入寺した本佛寺の現住職，茂木浩隆氏から，寺の本堂において，泊如竹の生い立ちから亡くなるまでの数々の偉業についてのお話を伺い，如竹堀については，住職自らが案内してくださり，今に伝わる当時の用水路の規模やその工事の様子等について詳しく説明をしてくださった。

6 活用の取組の工夫した点

- (1) 子供たちにとって最も身近である安房地区のことを詳しく知ろうというねらいで学習を進めた。その中でも安房地区発展のために尽くして下さった偉人として泊如竹が有名である。2学期、屋久杉についての学習をする際、泊如竹が屋久杉を切ることを勧めて、屋久島の人々の暮らしを豊かにしたことを学習した。
- (2) 見学に出かける前には、学校近くのお寺（本佛寺）で修行をしていたことや、用水路を掘って、安房の人たちがおいしい水を飲めるようにしたこと、亡くなった後も安房の町を守ろうと、港の近くに墓を作ってほしいと願ったことなどを安房地区が作成した伝記絵本で学習した。その後、現在でも大事に残されている墓（如竹廟）と用水路跡（如竹堀）を見学することとした。

7 取組の様子



如竹廟（泊如竹の墓）



碑文を熱心に読む児童



本佛寺の茂木住職のお話



如竹堀の石積み

8 参加児童・教員等の感想・意見

(1) 参加児童

ア 如竹びょうはよく行ったことはあったけど、如竹様のおはかだとはじめて知りました。そこには、とても古い石もあって、書いてある字は読めませんでした。昔からあるんだなと思いました。近所の人たちがいつもきれいにしているそうです。如竹様はやっぱり安房の人から大切に思われているんだなと思いました。

イ 用水路を作るとき、ぼくたちみたいな子どもも石を運んだと聞いてびっくりしました。でも、それは、はたらいてお金をもらえるようにするためだと教えてもらいました。やっぱり如竹様はやさしい方だと思いました。

ウ 如竹様がよく口にしていたことばが分かりました。如竹様は元気であたまがよくて勉強熱心で、屋久島以外のほかの県でも有名だと聞いてびっくりしました。自分でも、もっと調べてみたいです。如竹堀の長さも調べてみたいです。

(2) 引率教員

如竹廟においては、お墓とその周辺が整然と整えられ、地区の方々が泊如竹を大切に思っておられることが分かった。子供たちは、石碑の「如竹伝」に書かれていることを教師に尋ねながら読み、改めて知ったことをメモしていた。

用水路跡（如竹堀）の見学では、女性も子供も一緒に用水路工事のため石を運んだことを、本佛寺住職から聞き、その当時の苦勞がしのばれたのではないかと思う。

地域に伝わる物が、文化財（史跡）として、現在も大切に保存されていることは、大変ありがたいことである。郷土を詳しく知ることは、子供たちの郷土への愛を深めると思う。今回、泊如竹に関連する文化財（史跡）を見学できたことで、子供たちは、当時に思いを馳せることができ、偉人の功績を身近に感じることもできたと思う。